

薬剤耐性キュウリ褐斑病菌に対する各種薬剤の残効性

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

県内の薬剤耐性キュウリ褐斑病菌の分布状況を調査したところ、チオファネートメチル、ボスカリド、ストロビルリン耐性菌が存在していることが明らかとなった（普及に移す技術第85号参考資料）。また、本耐性菌に防除効果がある薬剤を明らかにした（普及に移す技術第85号参考資料）。ここでは、本耐性菌に防除効果がある薬剤の散布間隔の参考とするため、各種薬剤の残効を調査したので、参考資料とする。

2 参考資料

1) 県内のキュウリ栽培ほ場に分布するチオファネートメチル、ボスカリド及びストロビルリン耐性キュウリ褐斑病菌に10日間以上の残効が認められる剤は

- ・ T P N水和剤 1000倍（ダコニール1000）
- ・ ポリカーバメート水和剤 600倍（ビスダイセン水和剤）
- ・ マンゼブ水和剤 600倍（ジマンダイセン水和剤）
- ・ フルジオキシニル水和剤 1000倍（セイビアーフロアブル20）

7日間の残効が認められる剤は、

- ・ ジェトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤 1500倍（ゲッター水和剤）
- ・ ジェトフェンカルブ・プロシミドン水和剤 2000倍（スミブレンド水和剤）
- ・ イミノクタジナルベシル酸塩水和剤 2000倍（ベルコート水和剤）
- ・ メパニピリム水和剤 2000倍（フルピカフロアブル）

であった（図1, 2, 表1）。

2) キュウリ褐斑病菌の感染後の薬剤散布では、いずれの薬剤も効果は認められなかった（図1）。

3 利活用の留意点

- 1) 本試験はガラス温室内でのポットによる試験であり、灌水は株元に行い葉にかからないように管理した。
- 2) 試験は自根キュウリを用いており、発生が助長されるとされているブルームレス台木での効果は確認していない。
- 3) 本試験に用いたキュウリ褐斑病菌の各種薬剤に対する感受性は下記のとおりであり、採取圃場が異なる2圃場から単孢子分離した2菌株（供試菌株：MG3009, MG3010）を供試した。

供 試 菌 株	チオファネートメチル	プロシミドン	ジェトフェンカルブ	ボスカリド	ストロビルリン
チオファネートメチル、ボスカリド、ストロビルリン耐性菌	HR	S	S	VHR	R

R：耐性菌，HR：高度耐性菌，VHR：超高度耐性菌，S：感受性

なお、MG3010を供試菌株とした試験でも結果は同様の傾向であった（データ省略）。

- 4) 県内のキュウリ褐斑病菌の各種薬剤に対する感受性はほ場によって異なる。
- 5) キュウリ褐斑病の防除は予防防除が重要である。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8125）

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間
発生予察支援対策事業（平成22年度）
- 2) 参考データ

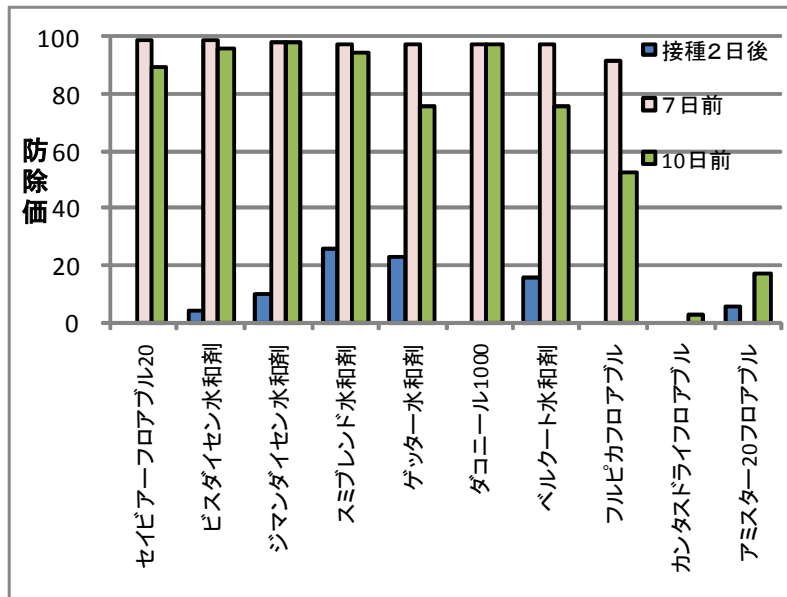


図1 チオファネートメチル・ボスカリド・ストロビルリン耐性キュウリ褐斑病菌（MG3009）に対する各種薬剤の残効性（ポット試験，平成22年度）

注：接種2日後：噴霧接種後，高湿度接種装置に24時間保持し，搬出した翌日に薬剤散布
7日前・10日前：それぞれ噴霧接種7，10日前に薬剤散布

表1 チオファネートメチル，ボスカリド，ストロビルリン耐性キュウリ褐斑病菌に対する各種薬剤の残効性

効果の残効	薬剤名
10日間以上	ダコニール1000・ビスダイセン水和剤 ジマンダイセン水和剤・セイビアーフロアブル20
7日間	ゲッター水和剤・スミブレンド水和剤 ベルコート水和剤・フルピカフロアブル

※効果の残効は2試験を総合的に評価した。

- 3) 発表論文等
なし
- 4) 共同研究機関
なし